義太夫協会会報
第100号
平成27年1月1日
一般社団法人 義太夫協会 発行
〒104-0045
東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル17F
Tel. 03(3541)5471
Fax. 03(3546)2334
http://www.gidayu.or.jp

会報百号発行を祝して

義太夫協会会長　波多一索

前会長の景山正隆先生より会長をお引き受けして早いもので十年になります。この所伝統芸能を取り囲む環境が、想像を絶する厳しさの中で今日まで参れましたのは、会員の皆様の一方ならぬ御協力のおかげで、改めて役員会員の皆様に心よりお礼を申し上げたいと存じます。

文楽を支えてきた人間国宝の太夫お二人が引退した今、女流義太夫の長老である鶴澤友路師匠並びに竹本駒之助師匠のご健勝をお祈りいたしております。幸い、一昨年より改めて祖先祭も見直されており、演奏会の集客の見直しも含め、今後とも変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

義太夫協会会報百号の発行にあたり、ゆかりの方々にご寄稿を頂きました（五十音順）。

会報一〇〇号に誇りを持つ

池田弘一

邦楽界には多くの協会がある。しかし、独立した事務局を持つものは少ない。そして、六十余年にわたって毎月の公演を実践しているものは、わが義太夫協会のほかにあるだろうか。事務所・事務局を持ち、事務に専念する職員を置き、確実に会報を出す。やさしいことではない。それを実行し、今日に至らしめた先人の先見と努力に敬意を表する。そうした努力を無にせず、生かすためには、会員である演奏者が協会主催の演奏会に観客、聞く人を増やすところから始まろう。そして、協会の諸会議に積極的に出席し、発言し、それが会報の記事の中心を占めるようにすることだ。明日を見すえ、新しい聞き手を引き寄せ、義太夫好きをふやす。そして聴く耳を持った人の前で自らの芸を向上させる。そのなかだちとしての協会、会報を大切に、誇れるものにしていこう。

（神田外語大学名誉教授・義太夫協会相談役）

「会報」一〇〇号発行に想う

景山正隆

義太夫協会会報第一号が発行されたのは、昭和四六年五月十日です。第一号の会報が、協会が社団法人として正式に認可された同年六月六日に先駆けて発行されたところに、当時の関係者の方々の意気込みが伝わってきます。

今回一〇〇号が発行されたということは、協会が様々な苦労を重ねながらも、営々と活動を続けてきた証しということが出来ます。

協会が社団法人として発足以来間もなく半世紀を迎えます。発足当時は、明治生まれの方々が太夫・三味線として活躍されていました。現今は、先達の技芸を継承された昭和前半期生まれの方々が中心となる時代です。

今は平成の時代。先達となる正会員の方々は、ご自身の芸道精進と共に後輩の若い世代に技芸を伝えるべき使命を負っておられるこ

とを、会報一〇〇号発行という一つの節目を迎えた本年は、改めて深く自覚されることを期待したいと思います。

現今のような時代は、後継者の育成ということは、容易でないと思いますが、わが国の誇るべき伝統芸能の一翼を担う義太夫節の伝承を決して絶やしてはならないと思います。

（一般社団法人義太夫協会名誉会長）

百号おめでとうございます

竹内道敬

記憶が定かでありませんが、女流義太夫を聴いたのは昭和三十年代後半からで、初めは本牧亭での土佐広さんだったと思います。それから時たま伺ったころは、あまり縁がなかったようです。それが昭和四十七年に義太夫協会が邦楽連合会に参加され、都民芸術フェスティバルに出演されるようになってから縁が深くなりました。協会報をいただくようになってからどのくらいになりましょうか。毎号苦心の編集で、細かいニュースが情報を知らせてくれました。私も経験がありますが、会報を定期的に出すのはたいへんです。最近では編集業務が進歩したとは言うものの、やっぱり縁の下の力持ちです。これまでのスタッフに表彰状を差し上げたいし、これからもぜひ続けていただきたい。内輪の分かり切ったようなエピソードでも、外部にとっては貴重な情報ですから。

（元邦楽連合会代表）

編集のOBから

水野悠子

私が会報に係わり始めたのは昭和四七年（一九七二）の第二号からでした。当初は割付けのみだったものが、いつの間にか編集後記も書くようになり、とうとう五八号まで。

私の時代は文字ばっかりとお叱りを受けたものですが、近年は写真も豊富、原稿はデータで送付、バックナンバーがホームページで読める（！）など、隔世の感があります。

他方、巻頭言を頂くため吉川英史先生のお宅にお寄りして、貴重なお話を聞かせて頂いたこと、豊澤猿三郎師が原稿をお届け下さった時の何気ない思い出話から次の随筆のテーマが見つかったことなど、アナログ時代ならではの特典は得難いものでした。

とはいえ、会報の使命は「後々の資料になること」に尽きるでしょう。将来の女流義太夫研究家は、まず会報をひもとくに違いありません。B5版からA4版になって読みやすくなりました。広告も沢山出して頂いて、編集のOBは感謝の念に耐えません。

（女流義太夫研究家・元義太夫協会事務局）

―創刊号から百号へ―

創刊号の発行は昭和四六年五月十日。現在から遡ること四三年半、半世紀近く前にあたる。タイトルの副題には「社団法人設立を記念して」とあり、冒頭には故・吉川英史氏の会長就任の挨拶文「頑固者の挨拶」が掲載されている。「近年の義太夫界の凋落ぶりには、悲しみよりも一種の義憤を感じていた」ものの、「馬鹿と鋏は使いよう」、どうか自分の頑固をうまく利用するように、とある。「わたしとしては、協会の内外の意見や忠告に耳を傾け、協会の運営方針を定めたい」「一端［ママ］決定した方針は、頑固と見えるまでに、熱心に辛抱強く実現につとめようと思う」等、数多の偉業を成し遂げた氏の人柄を彷彿とさせる文面である。会報のバックナンバーの七割は義太夫協会ホームページにて随時公開されている。

最近、某大手企業が「社員が読まなくなった」ことを理由に二年ぶりに社内報を電子版から紙媒体へと復活させた。この会報も「長く読まれる」紙媒体であることを自覚し、作業に臨んでいきたいと思う。

（編集部）

義太夫協会々報
創刊号

会報創刊号

竹本越道を偲ぶ会

越道師匠の一周忌に合わせて、去る九月二十日、日本橋亭にて「竹本越道を偲ぶ会」が開催されました。最近では珍しい昼夜二部制でしたが、技芸員は総出演。客席も満席。賑やかなことが大好きだった師匠は、とても喜んで下さったことと思います。お越し下さいましたお客様、ありがとうございました。

昼の部の開場時に師匠の録音テープ（佐太村)を流したところ、大好評でした。越道師匠を聴いたことがない方も「あの声、語り、すごい！」と、ずいぶん感激していました。もちろん我々の演奏も楽しんで下さいましたが、かなり師匠に持っていかれた感じが…。

越道師匠の語りをもっと聴きたかった、という方も多いことでしょう。そんな皆様に嬉しいお知らせ！　師匠の十八番「油屋の段」のCDが発売されました。昭和四九年、本牧亭にて収録されたものです。ご希望の方は義太夫協会までお問い合わせ下さい。

さて、追善公演も済み、弟子として師匠のためにしてさしあげられることが何もなくなってしまいました。できることは、芸道精進のみです。いつかあの世で師匠に再会したときに、「あんたを弟子にして良かったよ」と言って頂けますように。

大恩ある師匠と、師匠の語りを愛して下さった大勢の皆様に、心より感謝申し上げます。

（竹本越春）

「初代豊竹若太夫没後二五〇年」祖先祭

折からの台風襲来に伴う風雨の中、昨年の祖先祭は「初代豊竹若太夫没後二五〇年」と銘打って両国回向院にて執り行われました。一般参加のお客さま方も交えて法要を営んだ後、神津武男氏による豊竹座の元祖・若太夫に因んだお話があり、二階座敷へと場所を移してから、竹本土佐恵・鶴澤駒清両人による追善演奏「迎駕籠野中井戸　聚楽町の段」が行われました。この曲は初代若太夫（受領して越前少掾）の芸風を今に伝えるもので、天性の美声を駆使した華やかな節回しが特徴の、所謂「東風」の代表的な作品です。

その後は供された茶菓を前に参加者の皆様方の歓談タイムとなり、生憎の天候にもかかわらずお越し下さったお客様方のお陰にて和気藹々とした雰囲気の中、お開きとなりました。

祖先祭は元祖義太夫をはじめとする先人方に感謝と追慕の念を表すため毎年開催している義太夫協会の伝統的な行事ですが、節目の年には今回の様な記念の催しを計画しておりますので、その際は是非ともお誘い合わせお越しくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

（竹本越京）

講演中の神津武男先生

回向院念仏堂

クラウドファンディングによる見台修復プロジェクト

クラウドファンディングとはインターネット経由で多くの方々に財源の提供等をお願いするシステムで、本協会では、昨年、初の試みとして、寄贈された見台の修復費を募りました。

お陰様でたくさんのご支援を頂き修復が完了、去る十月二三日の女流義太夫演奏会にてお披露目を行うことができました。当日は大勢のお客様に見守られながら、人間国宝・竹本駒之助の語りとともに堪能して頂きました。ご支援頂きました皆様、本当に有難うございました。

また見台を寄贈して下さった、竹本和佐之助さんのお孫さんとそのご家族にも大変喜んで頂きました。

この見台が末永く使われて参りますよう、義太夫節という日本の大切な宝が未来に引き継がれて参りますよう、温かく見守って下さいますことを心よりお願い申し上げます。

修復後の見台

「娘義太夫　竹本住之助百二〇回忌」の会に想う

賛助会員　辻　萬里

もしも自分が義太夫教室（三四期）に行ってなかったら、わが家の菩提寺全生庵へ何千回墓参りしても、竹本住之助（すみのすけ）の墓碑に気を留めず、竹本さんちのジュウノスケ爺さんの墓とやり過ごしていただろう。

七年前。平井正修住職と墓碑の裏を見に行き、三遊亭圓朝、中村福助、尾上菊五郎などの名が刻まれているのに驚き、教室同期の鶴澤寛也さんを通じて水野悠子先生に教えを請うた。

竹本住之助。明治十一年、東京神楽坂毘沙門前の八百屋に生まれる。七歳から義太夫を習い、十三歳で真打。明治二六年、改進新聞の読者投票、将来の大立て者予想で一位。トップスター綾之助のライバルになると目された。技芸巧み、〝その容貌華麗ならざるも〟天真爛漫、愛嬌者。また慈善興行に熱心。明治二七年九月七日、巡業先の秋田で肺炎のため没。享年十七歳。私は全生庵で住之助を顕彰する義太夫の会が開かれることを夢見た。

昨年九月七日、越孝師の多大なる尽力により、竹本住之助百二〇回忌の会が開かれ、住之助が得意としたという「玉藻前曦袂　道春館」（越孝　寛也）「卅三間堂棟由来　平太郎内」（土佐恵　駒清）が語られた。夢は実現した。私は住之助を知ってから義太熱が三十数年ぶりに急上昇、稽古を再開し、土佐恵師匠にご指導いただいている。

北海道音更町　人形浄瑠璃への誘い

去る九月一二日北海道河東郡音更町にある音更町文化センターふれあいホールにて、八王子車人形西川古柳座と女流義太夫のジョイントイベントがありました。

この催しは、ＮＰＯ音更町文化事業協会三〇周年記念事業の一環として行われました。演目は『日高川入相花王　渡し場の段』などで、演奏は竹本越孝、竹本越春、鶴澤寛也、鶴澤賀寿の四名。越孝と寛也は、義太夫節の特徴など実演を交えた解説も担当し、大変好評を博しました。

また三番叟の人形には、西川古柳氏指導の、さっぽろ人形浄瑠璃あしり座有志も出演、若い座員さん方も大活躍でした。

三味線物語　―海を渡った三本絃の楽器―

文化庁主催（文化芸術による子供の育成事業―巡回公演事業―）、古典空間企画・構成の公演が行われ、二〇一四年九月は土佐恵・津賀榮、十一月は越若・賀寿が参加した。

大三弦・三線・長唄・義太夫・津軽と、中国から沖縄を経て楽器が変化していくさまを、各楽器を並べて奏者の話と演奏を織り交ぜ、目と耳で体感してもらうコーナー、事前のワークショップで津軽三味線を体験した生徒達の発表、改めて各楽器を用いた演奏、最後は全員での合奏と生徒達も交えての「花は咲く」。変化に富んだ内容で、各地で大好評。生徒達から「アンコール！」の声が飛んだり、お礼のエールや校歌斉唱に出演者が涙したりの光景も見られた。

―江戸時代の粋に遊ぶ―

去る十月十八日、東海道かわさき交流館主催（芸団協制作）の「江戸時代の粋に遊ぶ」十回目の公演が行われました。山縣基与志氏をナビゲーターに、毎回様々な芸能を聴き、さらに体験もしてみようというこの会、今回は越若・賀寿の演奏で「義経千本桜」椎の木の段。山縣氏とのお話を挟んで最後は曲の一部を全員で語り、限定三名が肩衣をつけての熱演に、客席も大いに盛り上がりました。

波多一索会長が文化庁長官表彰受彰

波多一索義太夫協会会長が、永年にわたる文化活動に優れた成果を示し、国の文化の振興に貢献した功績により、平成二六年度文化庁長官表彰を受けました。

撮影：高尾宏

原道生監事が河竹賞・角川源義賞受賞

原道生監事が、著作『近松浄瑠璃の作劇法』（八木書店）で、第四六回日本演劇学会河竹賞、および第三六回角川源義賞（文学研究部門）を受賞しました。

『五輪の年には文化省』

超党派の国会議員による文化芸術振興議員連盟（会長：河村建夫氏）と文化芸術推進フォーラム（議長：野村萬氏）によるシンポジウムが昨年十一月十三日東京美術倶楽部で開催され、五輪開催の二〇二〇年をめざしての文化省の創設と予算の拡大に向け歩みを進めることが宣言されました。その後の懇親会は人間国宝、日本芸術院会員の方々も出席、華やかかつ和やかな会となりました。当協会からは竹本駒之助が参加いたしました。

竹本駒之助（右端）

❖八王子車人形　メキシコ公演❖

二〇一四年十月十一日～二二日にかけて、国際交流基金助成による文化芸術交流海外派遣事業「八王子車人形西川古柳座メキシコ公演」が実施された。八王子車人形西川古柳座に加え、竹本越孝、竹本越春、鶴澤三寿々、鶴澤弥々の四名が参加した。

プログラムは「三人三番叟」に続き、義太夫の演奏を地方（じかた）とする「日高川」、「新曲釣女」。世界遺産都市グァナファトの招聘公演を皮切りに、パツクアロ、サンルイスポトシ、メリダの計四都市にての公演で、観客総動員数は二二六九名にのぼった。

公演は、通訳およびコーディネートを務めた平間充子氏によるスペイン語の字幕付き。人形の「ガブ」にビックリしたり、醜女が登場した途端に笑いの渦が巻き起こったりと、大人から小さな子供まで会場全体が大いに沸いた。

公演の他にメディアからのインタビュー取材も受けたが、たとえば能との比較など、日本文化への理解の深さが強く感じられる内容であった。感受性豊か且つ素直な国民性がひしひしと感じられ、実り多き公演であった。

新曲 釣女

メキシコ名物 歓迎のくす玉割り

JSニューヨーク公演

昨年十一月二〇日ジャパン・ソサイエティーニューヨーク（JSNY）での「The Shamisen Sessions A Salute to Tradition（三味線と日本の伝統芸能―至宝の芸）」に、竹本駒之助、鶴澤悠美、鶴澤津賀花が参加しました。JSNYは、NYにて日本文化の魅力を伝える日米交流団体です。プログラムは長唄「勧進帳」「多摩川」（杵屋巳津也・今藤長龍郎・杵屋勝十朗）、地歌「残月」（藤井泰和）、義太夫「嫗山姥 廓噺の段」。「勧進帳」と「嫗山姥」には花柳源九郎氏の舞踊も入りました。英語字幕のおかげで物語の内容がわかりやすく伝わり、廓噺の面白おかしいところでは笑いが起き、曲が終わった途端に客席から「おおお！」というどよめきが起きました。どの曲も予想以上の熱い反応で、出演者一同大興奮の一夜でした。また二二日には、近郊のクラークミュージアムでも公演が行われました。

写真提供：ジャパン・ソサイエティー
© Julie Lemberger

（鶴澤津賀花）

ほんに気がメ～リヤス

（十五杯目）

鶴澤慎治

皆様、明けましておめでとうございます。夏の会報はお休みさせて頂きましたから、一年ぶりのメ～リヤスとなりました。

最近、とある事情でカメラを手にすることが多くなりました。

実は、親が報道カメラマンであったにも関わらず、半年前まではカメラ、というか、写真というものに、あまり関心を持たずに生きて参りましたが、実際に取り組んでみますと、なかなか我々の仕事と似通った部分があるということが分かってきます。

それは、簡単に言ってしまえば「主役（主題）は何か」のために、必要なものと不要なものを峻別していく作業と言えそうです。

ご存じの方もおいでかと思いますが、カメラにはピントの合う範囲―つまり焦点は一点しかないけれども、ピントが合っているように見える範囲（被写界深度）―というのがありまして、これをカメラ側でコントロールすることで、主題を浮き上がらせる、という撮影技術があります。

例えばコスモスの写真、白黒では分かりにくいかもしれませんが、これは手前の花の「しべ」の部分だけにピントが合っていて、後ろの方の花はボケて、背景として画面を彩る役割になっています。

人形浄瑠璃の人気演目を歌舞伎で上演するにあたって、元の音楽性を残しながら、生身の人間が演じられるようにアレンジされてきたという、その成立過程を捨象して「ＢＧＭやナレーターの役割」と説明されることが多い竹本の仕事を、写真に当てはめてみると、確かに写真に音は写らないけれども、ヲキはタイトルだな、とか、ああ、今弾いてるメリは後ろの背景だな、とか、このポテチンは主役を引き立てる光とピントだな、とか、色々に豊かなイメージで演じられる、そんな気がいたします。

昨年十一月、二年ぶりに豊岡永楽館公演に出させて頂きました。私のお役は「帯屋」でしたが、もう一つの演目がコウノトリを題材にした舞踊劇でしたので、空き時間を利用して「兵庫県立コウノトリの郷公園」に行って参りました。

花札の「松に鶴」の鶴は、実はこのコウノトリではないか、という説もあるそうですが、昭和四十年代に野生種が絶滅して後、人工繁殖に取り組み、最近その公園から放たれた野生のコウノトリの両親から雛が誕生したとのこと…ここら辺にも、何か我々竹本連中の実態によく似たような、親近感を覚えるのでありました。

近年、公演数は増加するのに絶対数は増えず、会員の負担が増えてきている竹本。

本年も研修生の募集がありますが、おそらくコウノトリ以上に、育つまでに時間のかかる我々の仕事、どうか二十年後三十年後も義太夫狂言の幕が開けられるようにと願う次第です。

投稿コーナー

三師匠の七段目由良之助、管見

小野寺　不精

朝重師匠は女義きっての低音基調で、抑揚と振幅の少ない内に地も台詞も規矩にはまって語り分けてしまう。

七段目では高い女声のお軽を演ずる綾之助さんとよく合いました。

由良之助の男らしさ、緻密さ、沈着な指導力を最も感じさせる太夫でした。

最後の舞台となったのは平成二〇年九月十八日の国立演芸場でしたが、病院から直接お出でになったのかあの有名な朝重髷も結えてなかった。

関西から来たらしい、私の前の席にいた男が帰り際に立上がって言った「うまいや！」。最初に聴いた女義が最後の朝重師とはなんと幸運な人か。

駒之助師匠は何といっても現在女義の最高峰ですが、実（まこと）に華やか、自由自在、千変万化で闘志溢れる由良之助を観せてくれる。

芸能は聴き手側に聞きたいという気持ちがなければ演じ手の潜在力は顕在しえず、聴き手も熱くなりません。しかし駒之助師は気持ちのない聴き手にも火を点けて藝に引込んでしまう発動機（ダイナモ）のようです。つまり聴き手の聴きたい音（おん）がそこにあり、あるべき節（ふし）がここにある。

越道師匠は二回しか聴けませんでした。

最後となった舞台が平成十九年十二月十六日の国立演芸場で一力茶屋の由良之助でした。

愛弟子の越孝さんが平右衛門で出て、討入に加ろうと「師直屋敷の」まで言うと「コレ」と「ネイ」を繰返して止まり、由良之助の科白に間ができる。少しして「ア其元は」と悠揚迫らず、漸く言う。その間、周りはあせっていることが窺われましたが『昼行燈』は世間の間尺に合わぬ人でもあるのでしょう。越道師は由良之助を通して春風駘蕩、泰然とした内蔵助をも彷彿とさせてくれたのでした。その表情は、遺影となった舞台写真がよく現わしている。

越道師匠は享年百一歳、朝重師匠享年七六歳、豊穣の浄瑠璃を聴かせて頂いた感謝とお二人のご冥福を祈ります。

平成二六年九月二〇日（秋彼岸入り）

■協会の動き■

【平成二六年七月から　平成二六年十二月まで】

・主催・共催公演

七月二三日（水）　女流義太夫演奏会　若手勉強会　於　国立演芸場

八月十八日（月）　女流義太夫演奏会　於　お江戸日本橋亭

九月二十日（土）　女流義太夫演奏会　於　お江戸日本橋亭

十月二三日（木）　女流義太夫演奏会　於　国立演芸場

十一月二十日（木）　女流義太夫演奏会　於　お江戸日本橋亭

十二月十八日（木）　女流義太夫演奏会　於　紀尾井小ホール

・教室関係

八月二三日（土）　一日体験教室　於　豊川稲荷文化会館

九月十三日(土)～二〇一五年三月二一日(土)　義太夫教室　六七期実践コース（実技）

十一月二二日（土）～三月十四日（土）
伝統文化親子教室（文化庁委託）
於　豊川稲荷文化会館

・関連公演・学校公演
七月一日（火）・二日（水）
「じょぎ」公演
於　お江戸上野広小路亭
八月一日（金）・二日（土）
「ぎだゆう座」公演
於　お江戸上野広小路亭
九月一日（月）・二日（火）
「じょぎ」公演
於　お江戸上野広小路亭
九月八日(月)～十二日(金)、十一月四日(火)～七日（金）
平成二六年度文化庁学校巡回公演
「三味線物語」　（東北・北海道地区）
十月一日（水）・二日（木）
「ぎだゆう座」公演
於　お江戸上野広小路亭
十一月一日（土）・二日（日）
「じょぎ」公演
於　お江戸上野広小路亭
十二月一日（月）・二日（火）
「ぎだゆう座」公演
於　お江戸上野広小路亭
十二月六日（土）
第百一回日本素義会
於　鳥越神社内白鳥会館

■今後の予定■

【平成二七年七月まで】

・主催・共催公演
女流義太夫演奏会　（全て十八時半開演）
一月二十日（火）　お江戸日本橋亭
二月二五日（水）　国立演芸場
三月二十日（金）　お江戸日本橋亭
四月二二日（水）　国立演芸場
五月二十日（水）　お江戸日本橋亭
六月二四日（水）　国立演芸場
七月二七日（月）　国立演芸場
三月七日（土）
第四五回邦楽演奏会　国立小劇場

・教室関係
二〇一四年九月十三日（土）～二〇一五年三月二一日（土）
義太夫教室　六七期実践コース（実技）
二月七日（土）
義太夫・三味線一日体験教室
於　豊川稲荷文化会館
三月十四日（土）
義太夫教室卒業演奏会・ＯＢ会
於　江戸深川資料館ホール
六八期入門コース
五月二八日（木）～七月二三日（土）
（週二回木・土）
於　豊川稲荷文化会館

・関連公演
ぎだゆう座　初春公演
一月十日（土）　お江戸両国亭
開場十三時　開演十三時半
触れ太鼓　（公財）日本相撲協会
相撲甚句　両国相撲甚句会
新曲　釣女
大名　竹本　越孝　三味線　鶴澤　駒治
太郎冠者　竹本京之助　鶴澤三寿々
美女　竹本　越春　鶴澤津賀花
醜女　竹本　越京
偶数月　一、二日　ぎだゆう座
三月より奇数月　一、二日　じょぎ
五月二三日（土）
第百二回日本素義会
於　鳥越神社内白鳥会館

ご寄贈【平成二六年四月～十一月】

河野国声様御子息様
　映写用プロジェクター一式
北村明子様（竹本播造師ご遺族）
　象牙撥、稽古本等
田沢弘子様
　太棹三味線一式
鈴木喜美江様
　義太夫録音テープ一式

ご寄付【平成二六年六月～十一月】

日本素義会様　五万円
富樫三重子様（鶴澤清三師ご遺族）　三万円
石山岩男様（初代竹本綾之助師ご親族）　三万円
下永以志子様（竹本重之助師ご遺族）　一万円

訃報

相談役　久保庭信一様
　平成二六年二月十四日ご逝去
　謹んでご冥福をお祈り致します。

編集後記

とうとう百号です！

会報編集委員／鶴澤寛也（編集長）・鶴澤賀寿・鶴澤三寿々
編集協力／（一社）義太夫協会 事務局

！アルバイト募集！

○義太夫協会事務局では、協会業務のお手伝いをしてくださる方を募集いたします。
○業務の内容・日数等は応相談。
○エクセル・ワード必須、伝統芸能に興味があり気力・体力ともにパワフルな方、お待ちしています!!
お問合せ：義太夫協会事務局
　電話０３・３５４１・５４７１
　（月～金・１０～１７時）

☜ホームページリニューアルのお知らせ☞

昨年五月、義太夫協会のホームページ（ＨＰ）がリニューアルされました。前ＨＰは、パソコンに詳しい竹本越若がボランティアで作成・運営しておりましたが、このたび世間のインターネットの爆発的普及に伴い当協会でもＨＰの規模を大きくするにあたり、制作会社へ依頼し、度々の打ち合わせを経ての公開となりました。

おかげさまで、公演情報が大変見やすくなった（カレンダー方式）等のご感想をたくさん頂戴しておりうれしい限りです。さらに充実したＨＰを目指して参りますので、どしどしご活用下さいませ。

【ＵＲＬ】http://gidayu.or.jp/

義太夫用三味線・張替、水牛駒・見台・湯呑、制作修理　その他、各流三味線及び付属品の御注文承ります。

きむら

〒151-0066 東京都渋谷区西原 1-26-14
TEL/FAX　03-3466-2156
P.H.S　070-5457-5687
kimura-wanoshirabe@nifty.com

義太夫協会記録音源CD
好評発売中！
9月20日発売
女流義太夫懐かしの名演シリーズ vol.1
伊勢音頭恋寝刃　油屋の段　昭和49年本牧亭
浄瑠璃 竹本越道　三味線 豊澤仙廣
12月5日発売
義太夫協会音源シリーズ vol.6
艶容女舞衣　酒屋の段　昭和43年本牧亭
浄瑠璃 竹本重之助　三味線 鶴澤三生

各1500円（税込）受注生産方式（CD-R盤）
詳細・お申込みは義太夫協会まで

祝　100号おめでとうございます
江戸の粋を、今に伝える畢竟の人形劇
八王子車人形西川古柳座
国・選択無形民俗文化財　東京都指定無形文化財

あけましておめでとうございます
2015
葡萄
菊
夜
初春

100号 おめでとうございます
竹本駒之助門下 よしや

一〇〇号おめでとうございます
望月太左衛
伝統芸能教場
鼓樂庵
〒111-0034
東京都台東区雷門2-13-4岡本ビル2階
電話03-5828-3352
ファックス03-5828-3340
http://www.tazae.com
https://twitter.com/@tazae2【ツイッター／望月太左衛】
https://twitter.com/@korakuanippon【ツイッター／鼓樂庵】
http://ameblo.jp/korakuan/【ブログ】

祝 100 号

あけまして　おめでとうございます

日 本 素 義 会

第 102 回　5 月 23 日（土）開催
ふるって御参加下さい。詳細は菅野昌行まで

永谷　謹賀新年　祝 100 号

永谷商事株式会社　代表取締役　永谷浩司

本社 〒180-0004 武蔵野市吉祥寺本町 1-20-1　tel. 0422-21-1711

お江戸日本橋亭　お江戸上野広小路亭

お江戸両国亭　新宿永谷ホール